政界人脈

《ミャンマー》国民統一政府(NUG)の閣僚たち(上)

外交力を発揮する反軍政民主派勢力の「並行政府」

ミャンマーの「国民統一政府(NUG：National Unity Government of Myanmar)」は、2021年2月1日のクーデターで国軍が発足させた軍事政権の正統性を否定する反軍政民主派勢力が、ミャンマー連邦共和国の合法的な政府だとして樹立した事実上の臨時政府だ。欧州連合(EU)の欧州議会はNUGについて、「民主主義を願うミャンマー市民を代表する唯一の正統な機関」(2021年10月の決議)と認めており、米議会は昨年(2022年)12月にミャンマーの民主化を推進する「2022年ビルマ法」を盛り込んだ国防権限法を成立させて、米政府機関がNUGや同政府と連携する反軍政少数民族武装諸組織(EAOs)などに武器を除く様々な物資の支援や資金提供を行うことを可能にした。

日本や東南アジア諸国連合(ASEAN)は軍政との関与外交を優先しており、NUGは単なる「亡命政府」のように見なされているきらいがあるが、国連や欧米諸国に対しては軍政に対抗する「並行政府」として外交面で無視できない影響力を行使している。それ故に、ミャンマーと経済的に関係を持つ日本の企業人らがNUGの閣僚たちの活動やプロフィールを知っておくことには重要な意義がある。

〔国民統一政府(NUG)発足の経緯〕

［2021年2月1日］ミン・アウン・フライン国軍司令官(上級大将：Senior General Min Aung Hlaing)を主導者として国軍がクーデターを決行。

［2月2日］国軍が軍事政権の最高決定機関「国家行政評議会(SAC)」を発足させ、連邦の行政府の主要閣僚の人事を発令。

［2月5日］クーデターの正統性を否定する連邦議会の議員有志が、軍政のSACに対抗し、連邦議会に代わって暫定的に立法権を担う、「連邦議会代表委員会(CRPH)」を設立。

［3月31日］CRPHが旧軍政時代の2008年に制定された、現行憲法の廃止を宣言。暫定憲法とする「連邦民主憲章(FDC)」の制定を発表。

［4月16日］CRPHが軍政の行政府に対抗するために、反軍政民主派勢力を糾合した「国民統一政府(NUG)」(一部の邦字メディアでは「挙国一致政府」との表記も)を樹立。NUGでは、軍政当局に逮捕され勾留下にある、ウィン・ミン大統領とアウン・サン・スー・チー(Aung San Suu Kyi)国家顧問の地位を保全し、閣僚には、2020年11月の総選挙で当選した「国民民主連盟(NLD)」所属議員や少数民族政党・団体の代表などが任命された。

［5月5日］軍政指揮下の国軍・警察に対する武力闘争を行うための武装勢力として、NUG国防省の傘下に市民レジスタンス組織「国民防衛隊(PDF)」を結成(国防省は、PDFを武器の提供、戦闘員の訓練、合同作戦の実施などで支援する反軍政少数民族武装諸組織(EAOs)との連絡・調整業務も担う)。

［9月7日］NUGのドゥワ・ラシ・ラ大統領代行が「人々によって選ばれた民主政権からクーデターで権限を奪取した」国軍に対して「国民防衛戦争」の開始を宣言。

［11月］NUGが日本政府にミャンマーの正統な政府として承認するよう求める書簡を送付。

［2022年10月］NUGのジンマー・アウン外相が、ASEAN諸国に対し、「SACではなく、ミャンマー国民の代表であるNUGと話し合いを行うべき」との書簡を送付。

〔国民統一政府〔NUG〕の陣容〕

■大統領 President of the National Unity Government(NUG)of Myanmar

ウィン・ミン Win Myint

〔人物データ〕AMR18/04/15

■国家顧問 State Counsellor

アウン・サン・スー・チー Aung San Suu Kyi

〔人物データ〕AMR16/04/15

■副大統領兼大統領代行 Vice President and Acting President of the National Unity Government(NUG)of Myanmar

ドゥワ・ラシ・ラ Duwa Lashi La

反軍事政権民主派勢力の立法機関「連邦議会代表委員会(CRPH)」によって2021年4月に現職(副大統領)に任命された。(同年2月1日のクーデター直後から、恣意的な刑法違反の罪などで軍政当局の勾留下にある)ウィン・ミン大統領の職責を担う大統領代行を兼任している(「国民統一政府〔NUG〕」は現在もウィン・ミン氏をミャンマー連邦共和国の正統な大統領だと位置づけている)。少数民族・カチン族の法律家・政治家で広範なカチン族社会から尊敬を受けてきた。キリスト教徒。

＊現職就任以前は、宗教、社会、政治、経済など各分野のカチン族リーダーたちが2002年に結成した「カチン民族諮問評議会(KNCC)」の議長を務めていた。

＊2021年9月7日、「本日から自衛のための戦闘を開始する」として、国軍に対する「国民防衛戦争」の開始を宣言し、民主体制の復活を求める全ての市民や少数民族武装諸組織(EAOs)に対して武装蜂起するように呼び掛ける声明を発出した。

＊2022年9月7日には、「国民防衛戦争」を宣言して丸1年になるのを記念して演説し、「NUGは国土の半分以上を支配下に置いている」と表明した。

▼データ：【年齢】72歳(1950年生まれ)【生地】(旧ビルマ連邦)シャン州モンジ村【政党】無所属【宗教】キリスト教【人種】カチン族【学歴】(マンダレー管区メイミョー)セントマイケル学校卒。1974年ラングーン大学卒(文学士：BA)、76年同大学法学士(L.L.B.)【経歴】法務官僚・政治家：1976年からカチン州都ミッチーナとシャン州ラーショーで検察官として勤務。78年から法務官僚として要職を歴任(－94年)。2022年カチン民族諮問評議会(KNCC)議長。2021年4月16日国民統一政府(NUG)の設立時に副大統領兼大統領代行に就任(－現職)。

■首相 Prime Minister

マン・ウィン・カイン・タン Mahn Win Khaing Than

国軍がクーデターで軍事政権を発足させた翌月(2021年3月)に、「連邦議会代表委員会(CRPH)」によって一旦は副大統領兼大統領代行に任命されたが、同年4月16日の「国民統一政府(NUG)」設立時に現職(首相)に就任した。少数民族・カレン族の弁護士・政治家。「国民民主連盟(NLD)」に所属。キリスト教徒。

＊2016年に発足したNLD主導のティン・チョー(Htin Kyaw)政権下で連邦議会議長兼民族代表院(上院)議長を務めた。また、18年3月からのウィン・ミ

ン政権下でも任期に従って民族代表院議長に留まった(同氏の議長選任には、民族和解政策を推進するアウン・サン・スー・チーNLD党首による強い推挙があった)。
＊ビルマ連邦独立直前の1947年に「独立の英雄」アウン・サン将軍(アウン・サン・スー・チー氏の父親)とともに政敵に暗殺されたマン・バ・カイン(Mahn Ba Khaing)工業相兼労働相(独立前の暫定内閣)の孫にあたる。
▼データ：【年齢】71歳(1952年4月23日生まれ)【生地】(旧ビルマ連邦)イラワディ管区(現エーヤワディ管区域)ヒンタダ【政党】国民民主連盟(NLD)【人種】カレン族【宗教】キリスト教(バプティスト)【学歴】1975年ラングーン芸術科学大学(現ヤンゴン大学)卒(法学士)【経歴】弁護士・政治家：「カレン文学文化協会」書記を経て、90年「連邦カレン連盟」入党。2013年NLDに入党。15年11月総選挙で連邦民族代表院議員に当選(NLD：カイン州第8〔ミャワディ〕選挙区)。16年2月3日同議員に就任、連邦民族代表院議長に選出(－21年1月31日)、〔2月8日〕連邦議会議長(兼任)に就任(－18年1月)。21年3月9日連邦議会代表委員会(CRPH)によって副大統領兼大統領代行に選任される。同4月16日国民統一政府(NUG)の設立時に首相に就任(－現職)。

■外相 Minister of Foreign Affairs
ジンマー・アウン Zin Mar Aung

「連邦議会代表委員会(CRPH)」によって2021年4月に現職(国民統一政府〔NUG〕外相)に任命された。国連や欧米諸国を中心にNUGがミャンマー国民を代表する正統政府であることを訴え、政治的・経済的な支援を要請する外交活動を精力的に展開している。今年2月には、クレバリー英外相、シャーマン米国務副長官と相次いで会談。また、5月に入って、東南アジア諸国連合(ASEAN)の2023年議長国インドネシアとNUGが非公式協議を継続的に行っていることを公表した。
＊「国民民主連盟(NLD)」が圧勝した1990年総選挙の結果を拒否して居直りを続ける、当時の軍事政権(SLORC)に反対して学生時代から民主化運動に参画。98年には軍政当局に逮捕され、軍事法廷で禁錮28年の有罪判決を受けて、2009年に突然釈放(解放)されるまで11年間獄中で過ごした(うち9年間は独房生活)。
＊釈放後は、若者に政治と民主化について啓蒙する「ヤンゴン政治学校」や民主化、女性エンパワーメント、民族融和、良心の政治囚支援などを目的とする様々な市民団体を創設・参画するなどの活動を展開。2012年には、ヒラリー・クリントン米国務長官(当時)から国務省主催の「国際勇気ある女性章」を授与された。また、14年度の世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダーズ」の一人に選ばれている。
＊2015年11月総選挙でNLDから連邦国民代表院(下院)選挙に立候補(ヤンゴン管区域ヤンキン郡区選挙区)して当選、20年11月総選挙でも再選(同選挙区)を果たした(しかし、21年2月1日のクーデターで国軍が立法府を含む全権を掌握したことで議員資格を不当にも剥奪された)。
▼データ：【年齢】46歳(1976年6月14日生まれ)【生地】ラングーン(現ヤンゴン)【政党】国民民主連盟(NLD)【学歴】ヤンゴン遠隔教育大学卒(植物学)【経歴】民主化活動家・政治家：2015年11月総選挙で連邦国民代表院議員に当選、16年2月同議員に正式就任。20年11月総選挙で同議員に再選(同選挙区：－21年2月1日)。21年2月15日連邦議会代表委員会(CRPH)委員(－現職)、同4月16日国民統一政府(NUG)外相に就任(－現職)。

■国際協力相 Minister of International Cooperation
ササ Dr. Sasa

「ササ」は「さらなる高みへ(higher and higher)」を意味する敬称で、本名はサライ・マウン・タイン・サン(Salai Maung Taing San)。「連邦議会代表委員会(CRPH)」によって2021年4月に現職(国民統一政府〔NUG〕国際協力相)に任命された。少数民族チン族の医師でキリスト教徒。「国民民主連盟(NLD)」に所属。
＊2021年2月に国軍がクーデターで軍事政権を発足させた直後に「連邦議会代表委員会(CRPH)」の国連特使に任命され、同委員会の広報担当者として各国メディアへの対応に当たった。欧米諸国による軍政制裁などCRPHとNUGが軍政よりも外交面で優位に立てたことに大きな貢献を果たしている。
＊クーデター発生時には首都ネピドーの議員会館におり、兵士らがNLDの議員らを次々に拘束する中で首都を脱出し、タクシー運転手に変装してインド国内に逃走した。
＊チン州では知らない人はいないほど有名な慈善活動家。チャールズ3世英国皇太子(現国王)などの支援でミャンマーの少数民族の貧困地帯を支援するキリスト教団体「Health and Hope」を創設し、各地でプライマリー・ヘルス・ケア(PHC)活動などを展開。出身地のチン州ライレンピーに小型旅客機の滑走路を建設するとともに、インターネットを使った遠隔医療構想などにも取り組んできた。
＊自分の正確な誕生日を知らない。生まれた時に父親は遠地に行っており、母親は字が読めないためにカレンダーが理解できなかったからだという。
▼データ：【年齢】43歳(1980年生まれ：月日は不詳)【生地】チン州ライレンピー【政党】国民民主連盟(NLD)【人種】チン族【宗教】キリスト教【学歴】(インド・メガラヤ州)シロン大学留学、(アルメニア)エレバン国立医科大学卒【経歴】医師・慈善家・社会活動家：2009年キリスト教団体「Health and Hope」創設者。20年NLDチン州選挙対策委員会役員。21年2月22日連邦議会代表委員会(CRPH)国連特使、同4月16日国民統一政府(NUG)国際協力相(－現職)。

■国防相 Minister of Defence
イー・モン Yee Mon

反軍政市民レジスタンス組織「国民防衛隊(PDF)」を所管する国防省のトップ。PDFと反軍政少数民族武装諸組織(EAOs)との合同軍事作戦の「最高司令官」でもある。「イー・モン」は通称(ペンネーム)で、本名はマウン・ティン・ティッ(Maung Tin Thit)。
＊NLD政権下で進められた、EAOと政府・国軍の和平交渉「21世紀のパンロン会議」では、治安委員会の政府側作業部会員を務めた経歴があり、国内治安・軍事問題に精通している。また、同会議を通じて各EAOの幹部たちとも親交がある。
＊学生時代の1988年に民主化デモの急先鋒的な活動家として知られた。そのために、89年には母校のマンダレー医科大学から永久除籍処分を受けた。また、98年から7年間、反逆罪(実質的な政治囚)でマンダレー管区域内の刑務所に収監された。2020年11月総選挙で国民代表院議員(ネピドー・ポバティリ郡区選挙区)に当選(21年2月のクーデターに伴い軍政に議員資格を剥奪された)。
※各地のPDFとEAOの合同部隊は、北部・ザガイン管区域、中部・マグウェ管区域、東部・カヤー州、南東部・カイン州などで国軍・警察施設や車列などに対する、ドローンも使用した奇襲攻撃などを激化させている。そのため、地上部隊によって地域を統制できなくなった国軍はPDF掃討を空爆に頼らざるをえない状況に陥り、それに伴って民間人の死傷者も急増している(独立研究機関の報告によると、軍政が発足した2021年2月1日から23年5月22日までの期間に国軍は空爆を計1,427回実施した)。
▼データ：【年齢】55歳(1967年8月9日生まれ)【生地】マンダレー管区マハアウンミェ【政党】国民民主連盟(NLD)【人種】ビルマ族【学歴】1988年マンダレー医科大学卒(医学士：M.B.B.S.)【経歴】詩人・活動家・政治家：1998年政治囚として獄中生活を送る(－2005年)。釈放後、NLDに入党し、首都ネピドー・ポバティリ郡区党執行委員、マンダレー管区党環境保護委員などを歴任。議会関連では、国民代表院憲法改正調整委員、「21世紀のパンロン会議」治安委員会作業部会員などを務める。2020年11月総選挙で連邦国民代表院議員に当選(－21年2月1日)。21年2月15日連邦議会代表委員会(CRPH)委員(－現職)、同4月16日国民統一政府(NUG)国防相(－現職)。

(注)国民統一政府(NUG)の残りの閣僚・閣僚待遇者14人の〔人物データ〕は、次号(7月1日号)の「国民統一政府(NUG)の閣僚たち(下)」に掲載します。

(アジア・リンケージ　勝田 悟)